

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1093100012
法人名	社会福祉法人もくせい会
事業所名	めいわCOMハウスグループホーム
所在地	群馬県邑楽郡明和町大輪1768 (電話) 0276-55-8058

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年3月15日

【情報提供票より】(20年 2月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.35人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
又は1日1,400円			

(4) 利用者の概要(2月 25日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.1歳	最低	78歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西医院・館林厚生病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年1月開設のショートステイとデイサービスを併設した真新しいグループホームである。ホームは、大きな川の土手沿いにあり、日当たりが良く、周辺には畑が多く、静かで穏やかな場所にある。9名の入居者の中で4名が男性であるが、皆落ち着いて和気あいあいと生活している様子がうかがえた。症状の重い入居者に軽い入居者が世話をやくなど、共同生活者同士の思いやりも見られた。管理者はケアの経験が長く、また、職員は介護福祉士の資格を持っているものが多く、支援はさりげなく落ち着いて行なわれ、入居者に寄り添う姿勢が見受けられた。職員は理念を十分に理解しており、理念に基づく支援が行われていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員の意見を聞いて、管理者が作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回行われる運営推進会議では、ホームの現状を報告している。参加する行政、地域、家族からの要望・意見は、ホームで検討し実施に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見等は、面会時にコミュニケーションを図り、その時々には何かあれば言ってもらおうように努めている。また、玄関に投書箱を設置し、市町村の苦情窓口の存在を説明している。家族には、月に1回は入居者の生活全般を報告し、ケア方針等を相談している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームと地域の行事の相互参加を図っていく方針である。今後、運営推進会議に警察官や消防署職員の参加を依頼する予定で、入居者のより安全な生活維持に対して地域の協力体制を図っていきたいと考えている。また、地域の学校のホーム訪問に協力し、学校から継続の依頼があったり、学校から特別講義の依頼もあり、地域との連携を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がその人らしく地域で暮らし続けられるように支えていくにはどうしたらよいかを開設時に全職員で話し合い「常に相手の立場を立ち、誠意ある介護サービスを通して、ご利用の皆さんに安心を、ご家族の皆さんに平和を、そして、『明るい地域社会』づくりに貢献します」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、いつでもだれでも目にするように居間に掲示されている。入居者家族に入居時に理念を説明しており、職員は、支援方法で困った時等は理念に立ち戻り考え、理念に沿っているか確認している。会議においても話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時には、近所の方との挨拶が日常的に行われている。また、区長から入居者の参加できそうな行事などを教えてもらったり、ホームの納涼祭に老人会の出し物を披露してもらったり、近隣の方に参加してもらっている。昨年の納涼祭に参加した地域の子どもの訪問が、その後もたびたびある。また、教育の一環としての、地域の生徒の訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての外部評価である。自己評価は、職員とともに話し合いをしながら管理者が作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、区長、民生委員、家族代表、施設長、管理者、職員の参加で2ヶ月に1回開催しており、会議で出された意見はサービスに反映されている。今後、警察官や消防署の職員の参加を計画しており、より安全な生活の確保を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の健康管理のため感染症対策を相談したり、地域に暮らす認知症の方のためのサポーター養成制度の話し合いなど、市町村との連携が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者は地域の方がほとんどのため、少なくとも月に1回は家族の面会があり、その面会時を捉えて、担当の職員が入居者の生活全般の報告をしている。変化があれば、すぐに電話をしている。金銭管理は、出納帳にレシートを添えて報告しているが、報告が不定期である。	○	金銭管理は、金銭を使用しなかった場合にも定期的に報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等は、面会時に職員及び管理者がコミュニケーションを図って聞くようにしている。また、玄関に投書箱を設置し、市町村の苦情窓口の存在も知らせている。食事面での要望をホームで検討し、献立内容を変更する等運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までに離職者は1名である。今後、研修等の参加で離職者が出ないように職員のモチベーションの向上を目指す方針である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、順次認知症基礎研修を受講している。また、地域のグループホーム間で行われる交換研修にも参加している。今後、職員は実践者研修、管理者はリーダー研修に参加予定である。今年度より、勉強会系の職員を決めて定期的な勉強会開催を検討している。	○	現在のケアの振り返りと、よりよいケアの取り組みのために、定期的に勉強会を計画し実践することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホーム協議会に参加し、職員の交換研修を行っている。他のグループホームのケアで見習うべきものは、話し合いを取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたり、入居者と家族に来所してもらい、お茶の時間を一緒に過ごすなどして、グループホームでの生活を十分に理解していただいた上で入所してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、自立支援の立場で見守りを基本にケアを行い、入居者とのコミュニケーションの時間を十分にとり、共に生活する姿勢で取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールにセンター方式を用い、コミュニケーションでニーズの把握をするばかりではなく、家族から多くの情報収集し、入居者の歴史からもニーズ把握に努めている。又、言葉としてニーズを表せない方からは、日々の関わりの中で、表情やしぐさなどからも、ニーズの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員2名で入居者1名を担当する担当制をとり、担当者が入居者の介護計画原案を作り、ケア会議で全職員で話し合い完成させ、家族に確認されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて介護計画の見直しが図られるが、特に異常が無い場合、定期的な見直しが行われていない。見直しについては、「家族の思い」というシートがあり記入してもらい反映させている	○	定期的にモニタリングすることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを・ショートステイを併設しているので、デイサービスと行事を共同で実施し交流を図ったり、緊急時に通院が必要になった場合や買い物を希望する入居者に対して、ホーム以外の施設長等職員が協力して、柔軟に対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診できる。かかりつけ医受診の場合、基本的に家族が付き添い、場合によっては職員が付き添うこともある。ホームの協力医療機関に協力してもらい、往診をしてもらうことがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を設けており、入居時に家族に説明している。	○	ホーム開設1年以上経過したので、再度、家族の意向を確認し繰り返し話し合い、対応方針の共有を図られることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排せつの支援に対し、プライバシーを尊重し、他の入居者にわからぬようそれとなく誘導している。また、名前の呼び方を本人に聞いて決めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週2～3回ある入浴は、入居者の希望にそって支援するようにしている。また、外出や外食の希望も、家族の協力も得ながら希望にそって支援している。仲のよい入居者同士のお付き合いを、家族とともに温かく見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の希望を聞いて作成している。茶碗・おわん・湯のみ・箸は、入居者が家庭から持参した馴染みのものを使っている。職員は、入居者と同じものを同じテーブルで一緒に摂っている。食事の準備や座ってできる後片づけ等、入居者の状況に応じて担当し、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるよう準備しており、入居者の希望により週に2～3回入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、習字、買い物、カラオケ、大正琴、カルタなど一人ひとりの趣味を楽しめるように支援している。日常生活では、洗濯物をたたむ、食事の準備、後片付け等、入居者の状況に応じて役割を担っていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺は畑であり、天気の良い日はよく散歩に出かけている。洗濯物を干してある中庭には、いつでも出られるようになっており、入居者は自由に出入りしている。また、年4回外食の機会を持っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、外部からは自由に開閉できるが、内部からは暗証キーにより開閉しなければならない。	○	自由に開閉できるような環境づくりを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行っている。災害時のマニュアル、緊急連絡網があり、ホームにはスプリンクラーも設置されている。開設後間もないため、地域に働きかける計画をしているが、まだ地域の方の協力は行われていない。	○	地域に働きかける計画を進め、地域の方の協力が得られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量をチェックしている。水分は、1日1,500ccを目標に摂取し、脱水の予防に注意を払い、不足している入居者にはゼリー等を食べてもらう工夫をしている。食事量が少なくなった入居者には希望を聞いたり、栄養補助食品を使用し、体調管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、車いすでも移動しやすいようゆとりがあり、日当たりがよく3人掛けのソファが置かれている。トイレ内も広く3ヶ所あるので、混み合うことなくトイレ内で介助もしやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には、ダンス、ベット、ロッカーが設置してあるが、自宅から仏壇、テレビ、使い慣れたダンス等の家具を持ちこんで、その方らしく設えている。ベットではなく布団がよければ、希望に副えるようにしている。居室で、ハムスターを飼っている方もいる。		